

国語

その①

[小学校]

学んだ漢字をさまざまな言葉に応用し、語彙を広げることができる指導の在り方を明らかにしましょう。

小学校では、漢字の設問に課題がみられました。このことは、継続して岐阜県の課題となっており、そこで、本資料では、過去の調査結果も含めてその要因を分析・考察し、課題を克服するための具体的な指導例を紹介します。

課題のみられた問題と結果

小1四 漢字を文の中で正しく使う

ア「対象」県：正答率 33.4% イ「限らず」県：正答率 62.1% ウ「関心」県：正答率 34.0%

平成31年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校国語 P21～22
平成31年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校国語 P34～35

学校における分析例

ポイント

誤答の解答類型等から、「なぜ(どのように)」間違えるのかを推察しましょう。

授業や家庭学習で新出漢字を繰り返し書かせているのに、なぜ書けていないのだろうか？誤答の内訳を見てみよう・・・



4月に算数で「対称図形」の学習をしているけれど、「称」は国語では習わない漢字。それが書いて、国語で習った「象」が書けないのはどうして？



ア「対象」県正答率 33.4%

「対照」と解答しているもの・・・1.5%
「対」と、「象」「照」以外の「しょう」を解答しているもの・・・38.2%

ウ「関心」県正答率 34.0%

「感心」と解答しているもの・・・44.4%

多かったものは「対称」(国研報告書)

国語でどのように指導した？教科書の新出^{しんしゅつ}を確かめると・・・

設問	1	四(1)	教科書の新出時の語句
ア 対象	反対 (3年上「つたえよう、楽しい学校生活」)	印象 (4年上「白いぼうし」)	
イ 限らず	期限 (5年「次への一歩—活動報告書」)		
ウ 関心	中心 (2年下「わたしはおねえさん」)	関所・関係 (4年上「漢字の組み立て」)	

子どもたちの多くは「象」「関」という漢字自体は書けるかもしれない・・・
ただ「対象」「関心」という言葉を知らないだけではないだろうか？

過去の全漢字問題を対全国比が高かった順に並べると・・・

年度	設問	全国比	教科書の掲載	学年・教材
H25	焼く	+4.6	焼く	4年下「慣用語」
H30	積極的	+3.4	積極的	4年上「動いて、考えて、また動く」
H20	往復	+3.1	往復	5年上「仮名づかいの決まり」
H21	運ぶ	+2.6	運ぶ	3年下「カンジー博士の音訓遊び歌」
H19	協力	+1.8	協力	4年上「『かむ』ことの力」
H20	帰り	+1.3	帰りました	2年下「お手紙」
H21	病院	+1.3	病気 病院	3年上「三年とうげ」 3年下「カンジーはかせの音訓遊び歌」
H21	賛成	+1.3	完成 賛成	4年上「漢字の組み立て」 5年下「同じ読み方の熟語」

昨年度(H30)の漢字問題を確かめると・・・

設問	8	教科書の新出時の語句	県：正答率	全国比
ア 製造	製鉄所(5年「千年の釘に挑む」)		71.0	▲2.4
イ 設備	特設(5年「広がる、つながる、わたしたちの読書」)		80.6	▲1.6
ウ 消毒	消化(3年下「すがたをかえる大豆」) (4年下「熟語の意味」で「毒」が「消毒」で新出)		81.8	▲0.4
エ 管理	管理(4年上「よりよい話し合いをしよう」)		65.7	+0.7
オ 積極的	積極的(4年上「動いて、考えて、また動く」)		54.8	+3.4

教科書と同じ言葉での出題



教科書の言葉がそのまま出題されるとよく書けていることが分かる。言葉が変わると書けないのは、漢字の意味や訓読みを理解せず、言葉単位で丸暗記しているからではないだろうか？

ポイント

課題となる児童の状況は、どのような「指導」に起因しているのかを考察しましょう。

児童の実態

- 教科書の言葉の漢字表記を丸暗記している。
- 一字一字の意味(訓読み)などを理解していないため、他の言葉まで語彙が広がっていない。

実態の要因と思われる指導法

- 新出漢字について、教科書中の言葉を繰り返し書かせる指導。
- ドリルを使用した家庭学習で、問題文と漢字を書き写させている。

確かに、字そのものは書かせても、意味まで理解させていなかったかもしれない・・・

学校における指導改善例

前の時間に本文で習った「期限」は、「期間を限る」ということで、「限る」は範囲を区切るという意味です。では「限」を使った他の言葉の一つ探しましょう！

分析・考察からの具体的な指導改善例

- I. 新出漢字の学習は確実に時間を確保し、熟語で出てくる場合も一字ずつ意味（訓読み）を教え、その他の語句を例示する。
- II. 授業の冒頭や、朝・帰りの時間などを使って、既習の漢字をさまざまな言葉に応用し、語彙を広げる指導を日常的に継続する。
 <帯時間として設定することも可能>
- III. 家庭学習では、ドリル練習に加えて「その漢字を使った他の言葉」を二つずつ書いてくる内容にする。



自校結果の分析・指導改善

1 四（1） 漢字の設問の正答率と解答類型

1 四 各問 自校：正答率		
ア「対象」	イ「限らず」	ウ「関心」
%	%	%

設問	解答類型	自校	全国との差	全国
ア「対象」	「対象」と解答しているもの			41.9
	「たい」を「対」と解答しているが、「しょう」を「照」と解答しているもの			3.3
	「たい」を「対」と解答しているが、「しょう」を「象」、「照」と解答していないもの			29.5
	「たい」を「対」と解答していないが、「しょう」を「象」と解答しているもの			1.6
ウ「関心」	「関心」と解答しているもの			35.6
	「しん」を「心」と解答しているが、「かん」を「感」と解答しているもの			47.1
	「しん」を「心」と解答しているが、「かん」を「関」、「感」と解答していないもの			2.6
	「かん」を「関」と解答しているが、「しん」を「心」と解答していないもの			0.4

平成 30 年度（昨年度）漢字の設問の調査結果 A問題 8

設問	教科書の新出時の語句	自校	全国との差	全国
ア 製造	製鉄所（5年）			73.4
イ 設備	特設（5年）			82.2
ウ 消毒	消化（3年）（4年下で「消毒」）			82.2
エ 管理	＝ 管理（4年上）			65.0
オ 積極的	＝ 積極的（4年上）			51.4

【分析】児童の実態

【考察】実態の要因と思われる指導法

【指導改善】今後の具体的な指導

国語

その②

[中学校]

既習の知識及び技能を意図的に活用させ、確実な定着を図りましょう。

中学校では、特に自分の考えを書きまとめる問題がよくできていました。一方で、知識及び技能の定着について課題がみられました。このことは、本県において継続して課題となっています。そこで本資料では、過去の調査結果も含め県内の学力状況を捉え、具体的な指導改善へと結び付ける例を紹介します。

課題のみられた問題と結果

中1四 「声の広場」への投稿を封筒で
郵送するために、投稿先の名前と住所を書く

平成31年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校国語 P20～23
平成31年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校国語 P28～34

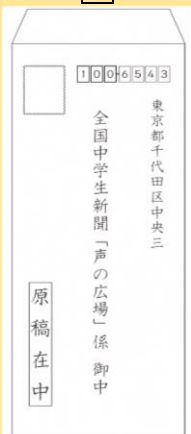
県：正答率 59.7%

学校における分析例

ポイント

これまでの調査問題の結果も含めて、学力状況の傾向を捉えましょう。

設問 1 四



【正答の条件】

- ① 投稿先の名前と住所の正しい内容を楷書で書いている。
- ② 投稿先の名前に敬称を適切に付けて封筒の中央に書き、住所を封筒の右側に書いている。
- ③ 投稿先の名前を住所より大きく書いている。
- ④ 縦書きで書いている。

正答	解答類型	県：反応率
◎	全ての条件を満たして書いている。	13.3
○	条件③「名前を住所より大きく書く」のみ×	43.0
○	条件①、④を満たし、条件②について「投稿先の名前や住所を書く位置」が大きく偏っている	3.4
○	条件②、④を満たし、①「投稿先の名前と住所を正しい内容で書く」が×	17.1
○	上記以外の解答	18.5

自分の考えを書きまとめる力を身に付けている子どもたちが、どうして「封筒に正しい宛名を書く」といった知識及び技能に関する内容が身に付いていないのだろうか？

平成30年度調査 A問題

過去の「知識及び技能」に関する調査結果を見ると...

設問番号	設問内容	県：正答率	全国との差
8-1	漢字を書く(紙をひもでタバねる)	76.6	▲ 2.4
8-2	漢字を書く(舞台のマクが上がる)	67.1	▲ 5.8
8-3	漢字を書く(先制点をユルす)	68.9	▲ 2.5
8二1	漢字を読む(模型を作る)	94.3	▲ 1.4
8二2	漢字を読む(池の水が凍る)	97.5	▲ 0.3
8二3	漢字を読む(技を磨く)	98.2	+0.1
8三ア	適切な語句を選択する(終始一貫)	77.6	▲ 0.1
8三イ	適切な語句を選択する(習性)	89.8	▲ 1.2
8三ウ	適切な敬語を選択する(おっしゃった)	87.6	▲ 0.4
8三エ	適切な語句を選択する(せきを切ったよう)	28.1	▲ 1.1
8三オ	適切な語句を選択する(折り合いをつける)	61.3	▲ 0.5
8三カ	適切な語句を選択する(ひとえに)	63.8	▲ 1.6
8三キ	適切な語句を選択する(一方)	95.1	▲ 0.1

これまでも、今回の「宛名の書き方」のような、知識そのものを問う設問は課題であることが分かる。

漢字の設問は全て小学校で習ったものだけど、定着していないということになる。中学校で、既習漢字をしっかり活用させていないからではないだろうか？

知識及び技能に関する内容を小単元で指導した場合、その学習の中だけで使わせたり見届けたりして終わっていないだろうか。国語の他の場面や、他教科、日常生活などさまざまな機会を捉えて活用させていく指導をすれば、確実に定着していくのではないだろうか。

ポイント

課題となる生徒の状況は、どのような「指導」に起因しているのかを考察しましょう。

生徒の実態

➢ 学んだ言語の知識をあまり活用せず、既知の語彙で話したり書いたりしているため、言語の知識が活用できるものとして定着していかない。

実態の要因と思われる指導法

➢ 語彙や言語文化等の、言語の知識に関する指導を小単元で実施する場合、その小単元の中で見届けることで指導を完結している。

学校における指導改善例

分析・考察からの具体的な指導

- I. 各領域の言語活動において、小学校も含めた既習の漢字や語句を意図的に取り上げて指導する。
- II. 総合的な学習の時間や特別活動などの国語科の授業外で、国語で学んだ知識や技能を活用させる指導を行う。
※学年部や他の教科部との連携が重要になる。

「読むこと」の学習でも…



本文にある「歓迎」という言葉の「歓」という字は似た字がありますね。
それぞれの字の意味と、それを使った言葉を調べてみましょう。

自校結果の分析・指導改善

1 四 「封筒の宛名書き」の解答類型

1 四 自校正答率

%



解答類型		自校	全国
◎	全ての条件を満たして書いている。		15.4
○	条件③「名前を住所より大きく書く」のみ×		38.7
○	条件①、④を満たし、条件②について「投稿先の名前や住所を書く位置」が大きく偏っている		2.7
	条件②、④を満たし、①「投稿先の名前と住所を正しい内容で書く」が×		16.8
	上記以外の解答		20.7

平成 30 年度（昨年度）言語の知識に関する設問の調査結果 A問題 8

設問番号	設問内容	自校	全国との差	全国
8一1	漢字を書く（紙をひもで タバ ねる）			79.0
8一2	漢字を書く（舞台の マク が上がる）			72.9
8一3	漢字を書く（先制点を ユル す）			71.4
8二1	漢字を読む（ 模型 を作る）			95.7
8二2	漢字を読む（池の水が 凍 る）			97.8
8二3	漢字を読む（技を 磨 く）			98.1
8三ア	適切な語句を選択する（終始 一貫 ）			77.7
8三イ	適切な語句を選択する（ 習性 ）			91.0
8三ウ	適切な敬語を選択する（おっ しゃ った）			88.0
8三エ	適切な語句を選択する（ せき を切ったよう）			29.2
8三オ	適切な語句を選択する（折り合 い をつける）			61.8
8三カ	適切な語句を選択する（ひと え に）			65.4
8三キ	適切な語句を選択する（ 一 方）			95.2

【分析】生徒の実態

【考察】実態の要因と思われる指導法

【指導改善】今後の具体的な指導